

新型コロナウイルス感染予防対策 ガイドライン (第二版)

東京都ソフトボール協会
審判委員会

- ① 自宅にて検温を行い審判手帳に記入して下さい。37.5度以上の発熱があった場合は、必ず責任者に報告して参加しない。(大会会場に参加者名簿が用意されている場合は必要事項の記入をすること)
- ② 初めにグラウンドに入るときは必ず検温をする。(体温計が競技場に用意してある場合)
- ③ 手・指等のアルコール消毒スプレーを各自で用意するのが望ましい。(こまめに消毒すること)
- ④ 大会会場では、マスクの着用・保持を徹底する。(予備のマスクも用意すること)
- ⑤ 密にならないようお互いに距離を確保する。出来るだけ2m(最低1m)を保つ。
- ⑥ 飲料水・タオル(冷濡れタオル含む)等は各自にて用意願います。(熱中症対策もお願いします)

《試合について》

- ① グラウンド整備時は手袋を使用し、整備後は必ず手洗い・手指消毒を行う。(手袋はその都度捨てる)
- ② 用具の点検は目視(選手に提示してもらって)と言葉での確認もしくは手袋を着用して用具確認する。試合の間隔が短い場合が多いと思われるので、チームとの連携で済ませること。
- ③ コイントス時には、主将をバッターボックスに入れないこと。
(お互いの距離を保つ・審判員はマスクを着用)
- ④ 打順表の最終確認は、マスクを着用してお互いの距離を保ち握手は控えること。
- ⑤ 試合開始時と終了時の選手集合場所は、両チームベンチ前に整列して礼をする。
- ⑥ 試合球の管理は、スタッフ又は控え審判が手袋(担当が終わった時はその都度手袋を捨てる)をつけての管理が望ましい。(素手で試合球に触れない)
- ⑦ 塁審は試合中のマスクを着用しなくても良いが、選手との距離を2m以上保つように心掛けること。
- ⑧ 球審は試合中球審用マスクのみで行うのを可とするが、個人の意思または大会規定等によりマスクを着用しても良い。着用時鼻部を出しても良い。
フェイスシールド取付可とするが、反射等投球・プレイを妨げるものは避けること。
尚、捕手や打者に触れてはいけない。(捕手用マスク・バット含む)
- ⑨ 球審のストライク・コールは控えめにし、ボールカウント表示は随時示すように留意する。
ボールカウントの表示も状況によって、コール無しでも良いとする。
- ⑩ 待機中の審判員は必ずマスクを着用すること。(大会関係者全員ともに)
- ⑪ 両チームのベンチについては、ソーシャルディスタンスを心掛けるために選手がベンチから出ても良い。ベンチスペースを通常より大きく配置するなどグラウンド毎取り決め周知徹底すること。
- ⑫ 大会終了後に体調不良になった場合は、大会責任者各位に速やかに連絡願います。